

拝啓 今年も3月下旬となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。タイからは、3月6日無事帰りました。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。近所の公園では、木蓮の花がつぼみを大きくふくらませ、咲くばかりの頃となりましたが、今年は東北・関東の大地震のせいで、春が間近になっても気持ちが沈んで喜べない気持ちがあります。大地震で、被災された方々に心からお見舞い申しあげると共に、政府や国民の手による一日も早い復旧、援助を祈ります。私たちクリスチャンが、できることは祈ることだと思います。被災された方々、復旧に尽力されている皆様のために祈りましょう。祈りの内に、私たちがそれぞれ何を協力すればいいかも示されると思います。

今回の地震は、マグニチュード9.0で、1000年に1回という大地震でした。これと同じような規模の災害で、私たち日本人に思いだされるのは、大正12年9月1日の関東大震災、昭和20年3月10日の東京大空襲、20年8月6日、9日の広島・長崎の原爆投下だと思います。今回の地震・つなみはこれらに匹敵する大災害だと思います。

東京大空襲の時の南原先生の歌を思い出します。

大爆撃に一夜のうちに焼け果てし市路に立ちて声さへ出せず  
身のかぎり町は焼野となりけりたたかひなればか人怪しまず  
花見れば花の美し雲見れば雲ぞ恋(こほ)しきわが生きをりて  
美しきものはわが見て善きものは読みてぞ置かむ明日は死すとも

3月10日の夜中、東京大空襲で10万人の人が亡くなりました。関東大震災では14万人、広島原爆では約24万人、長崎原爆では12万人の人が亡くなりました。(原爆の死者数は、資料により数字が違っていることがわかりました。)一瞬にして、平穏な生活から被災生活に激変しました。

また、相沢良一先生は、昭和61年11月21日、伊豆大島の三原山の爆発で、島民全員が避難し、千代田区体育館で1か月避難生活を送られました。エンカウンター第99号に載せました「三原山燃ゆ」、「千代田区立総合体育館」、「伊豆大島より避難して」、「机上との戦い」は、その時の記録です。

3月19日、内村鑑三生誕150周年記念講演会に行っていました。3人の講師の話でしたが、ドイツ人女性の木村ハンネローレさんのお話が素晴らしかったのですが、最後にルターの言葉を贈りますと言われ紹介されました。それは「明日世界が滅びるとわかっていても、私は今日リンゴの木を植える」と言う言葉でしたが、そうだと感銘を受けました。

春間近であります、どうぞお体ご自愛のほど祈り申し上げます。

平成23年3月24日

山口周三

エンカウターの読者各位